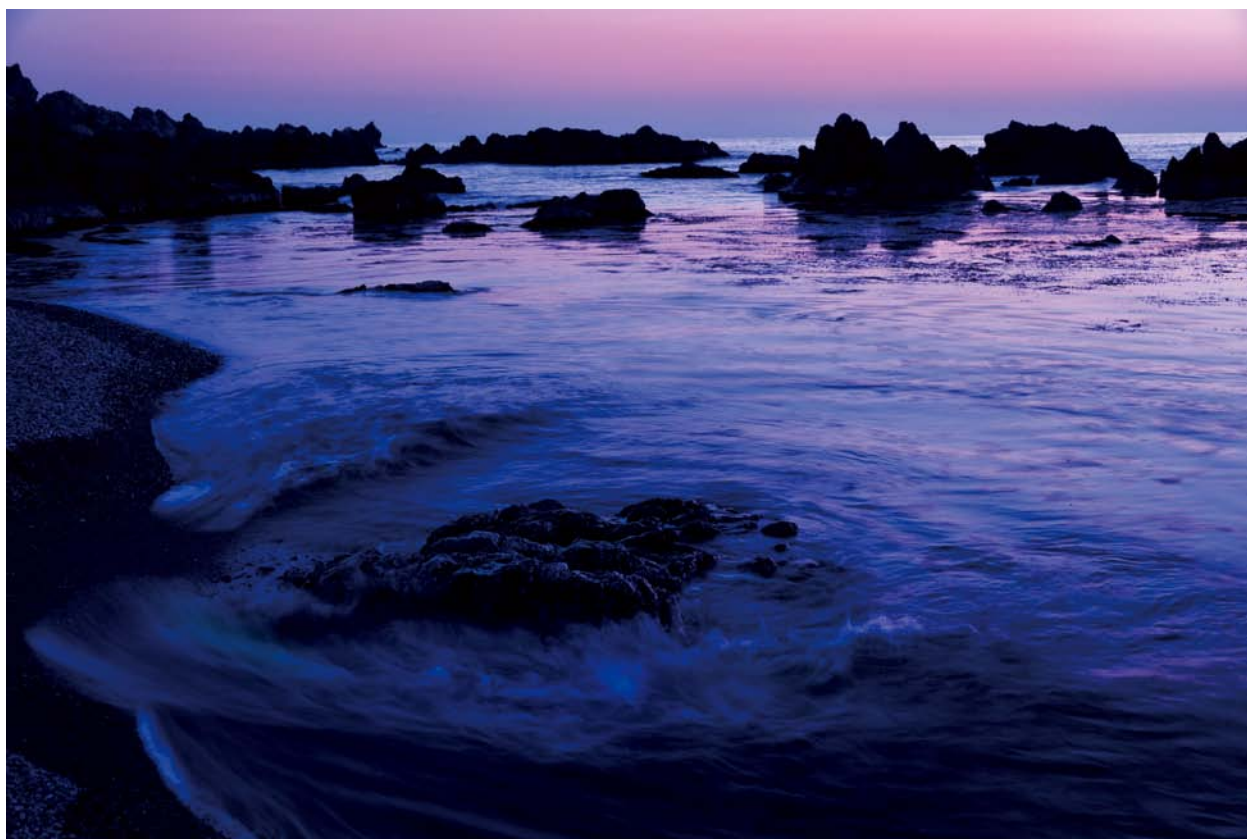


福 井 県 医 師 会

だより

第652号 平成27年(2015)10月



黄昏の詩

鯖江市 清水 元博

表紙写真説明：黄昏の詩

鯖江市 清水 元博

越前町長須浜から眺めた黄昏時の光景です。

この場所は、砂浜が長く続く海水浴場として有名で行楽時には大勢の海水浴客で賑わいます。又、毎年、越前祭りのメインイベントとして多くの花火が打ち上げられ、重なる急峻な岩礁と花火の写り込みが大変美しく、大勢のカメラマンに人気のある所です。

当日は夕陽の撮影に出かけたのですが、日没後、空の色がコバルトブルーからレッドに変化していく様子が海面に写り込み、押し寄せる静かな波と相まって黄昏時の一瞬を切り取ることができました。

醫 縫 録

就任のご挨拶

福井大学病態制御医学講座内科学(1)教授 山内高弘



福井県医師会の諸先輩、諸先生方、私、このたび平成27年4月1日付で福井大学病態制御医学講座内科学(1)第三代教授を拝命いたしました山内高弘と申します。以前より白血病や痛風について講演する機会を何度か頂き、皆様方に拝謝いたします。

私は福井医科大学4期生として昭和58年に入学いたしました。学生時代は空手道部と合唱部に所属し、空手道部では第三代主将を務めました。平成元年に卒業し内科学第一講座に入局いたしました。中村徹初代教授のもと初期研修を終了し、上田孝典第二代教授(現福井大学理事 副学長)が着任された翌年、平成8年に学位を取得いたしました。同年、教官として内科学(1)教室に籍を頂き、平成11年より2年半米国MD Andersonがんセンターに留学、平成20年より4年間病棟医長、平成24年より3年間外来医長と多くの経験をさせていただきました。そして今年4月より現職を仰せつかり、その重責に身の引き締まる思いであります。

私の専門は血液内科学、腫瘍内科学で、その中でも難治血液がんである白血病の抗がん薬治療を得意分野としております。これは本教室の伝統でもあります。私、日本成人白血病治療研究グループ(Japan Adult Leukemia Study Group, JALSG)の再発・難治骨髄性白血病委員長を務めており、臨床研究・治験を通じて白血病の新治療の確立を目指します。そして日本血液学会の造血器腫瘍診療ガイドライン作成委員(2015年1月～、担当は急性骨髄性白血病)となりましたことから、日本の白血病治療の標準化と底上げを目指します。福井大学医学部附属病院はわが国における白血病診療の拠点のひとつであり、私たちの教室は一丸となって、白血病治療のさらなる発展を前方に見据え、福井県における白血病患者さんの診療に全力を注いでおります。昨年9月に開院した福井大学医学部附属病院新病棟では北7階に無菌個室17

床を含む32床を有し、白血病だけでなく悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった血液がん、そのほかの良性疾患などさまざまな血液疾患に対して最先端の治療を行っております。また、血液がん治療の根幹は抗がん薬であることから、教室員全員が抗がん薬治療に精通しております。その意味でがん専門内科(腫瘍内科)として、原発不明がん患者さんや特殊な抗がん薬を使用しなければならない患者さんも当科が拝受しております。もうひとつ私が力を入れている重要な専門分野は痛風です。私は、尿酸研究の草分けである故中村先生、現日本痛風・核酸代謝学会副理事長上田先生より直々の薫陶を受け、2010年より高尿酸血症・痛風診療ガイドライン作成委員を務めております。痛風は現代日本においてはcommon diseaseであり、ほとんどの痛風患者さんをご開業の先生方を中心とする第一線の臨床医の方々のお力により良好にコントロールされております。しかしながらまれに痛風発作が止まらず難渋する症例もあり、そのような場合は私達が拝診させていただく機会があるかと思っております。さらに内科学(1)では教室の出身でもある感染制御部の岩崎博道教授を中心に感染症の診療も鋭意行っております。

このように私、微力ではありますが、福井県の医療のために、誠心誠意努力をいたす所存でございます。白血病などの血液疾患、痛風のみならず、なにかございましたらどうぞなんなりとお申し付けください。また、私達教室員が外勤先等で先生方から直接のご指導を仰ぐことも多くございます。これからもどうぞご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。以上、簡単ではございますが、就任のご挨拶とさせていただきます。